

刊夕日三十月五



定価 一部金五銭 五分金五銭 郵税五銭  
廣告料 五銭 十二字 一行 金五銭 餘  
日曜 祭日の翌日 休刊  
発行所 常磐毎日新聞社  
印刷所 常磐毎日新聞印刷株式会社

### 萬葉人の童心二三

岸田定雄

日本文學史に於て、ある文學時代の主情なり、主調なりを叙述するに當つて大和時代の特性を、素材とか誠とかで表現してゐるが、これは上代文學を繙けば誰しもにうなづけることで、この素材とか誠とかは童心といふものと甚だ親しいものである。

親の姿が見えないのでそれを慕ふてひたむきに泣く小兒の心持を彷彿する。

卷九の浦島の歌や卷十五の竹取翁の歌など（これは平安期に出来た竹取物語）と大分違ふが日本人の誰しにも親み深いものとなつてゐる。尤もこれが純粹の民族精神の産物かどうかは問題で支那の神仙信仰の影響がある事は争はれない事實である。しかし、更に遡つて大八洲國へ天降つた天孫民族が大いに居る時既に持し、後來に齎されたとしても外來精神を統一するその方法に於て民族精神が發露してゐることは否めない。

例へど古事記について拾つてみると、履中天皇の條で水齒別命が準人會婆が里に顔をも隠す大腕で酒を吞ましめになる時、首を討たれるのであるが今からみれば極めて幼稚なこの企てに上代人の童心が伺はれる。さて萬葉集に卷一額田王の三輪山を然かも隠すか雲だにも情あらなむかくさふべしや

や卷十二讀人不知の君が邊り見つゝも居らむ生駒山、西雲なたなびき雨は降るとも

なども確に人麻呂の「靡けこの山」の部類に入る。萬葉人の火と燃ゆる生々しい戀情が透つてこの形態をとつてくるのである。遊びから歸つてみると母

タツと迫る童心の閃きがある。同じ雲の歌に三方沙彌（卷十九）の長歌

大股のこの廻の、雪な踏みそね、しばしばも降りざる雪ぞ、山のみ降りし雪ぞ、ゆめ縁なる、人やな履みそね雪はがある。雪な踏みそね、な履みそね雪はと繰り返し雪のふるのに狂喜するところに「チツサンも喜こんどろ」といふ氣持が浮ぶ、私はこの歌を誦むと、子供が手拭でもかぶつて雪の庭をコラサと踊つてゐる状態が目映つてならない。

童話といつたものを上げると卷十の「茸を詠める」高圓のこの峰も狭い笠を立て、海盛りなる秋の香のよき高圓は春日山の連峰を推さねばならぬ、團點のところを味つていたきたい。卷十三に四で鳥をとる長歌がある。

近江の海泊り八十あり、八十島の島の崎崎、あり立てる花橋を、末枝に翹ひき懸け、中つ枝に斑鳩懸け、下枝にしめかけ、其が母を取らなくを知らに、其が父を取らなくを知らに、いそび居るよ、斑鳩としめと逢坂山あたりの日あたりのよいところて呑氣に鳥取り

をやつてゐるのであらうがしかし鳥に對する憐憫の情は溢れてゐる。それなら取らねばよさうなものであるが、そこが人の世。

卷十六乞食の歌（蟹のために痛ひを述べて作れる）長歌も代表的のものと言へよう。

おし照るや難波の小江に、魔作り隠りて居る、葦蟹を王召すと、何せむに吾を召すらめや、明けく吾は知ることを、歌人と吾を召すらめや、笛吹きと吾を召すらめや、琴弾きと吾を召すらめや、

餘り長いので省略するが、藝人でも何でもない私を大和へお召しになつて、磯について、食し上がられるといふ全篇の構想である。泡をふいたり鉄をふつたりするところが藝人と見られたところであらうが、これを讀んで白秋のあはて床屋、小蟹ブツブツしやぼんをとかし親父や自慢で鉄を鳴すを思ひ出すのは私一人であらうか。

感じの良！ 客に親切な……

### 阿部薬舗

平・田町（松月堂向）

### 高久病院

院長 醫學士 高久 忠  
副院長 新潟醫學士 赤羽 清  
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄  
平町田町 電話五一三番  
内科小兒科 外科花柳病科  
耳鼻咽喉科 レントゲン科

### 有給社員招請

三井生命保險株式會社  
東京市日本橋區室町三井第二號館  
駐在地、福島縣内ニシテ本人ノ希望地  
◇外務社員 拾名  
◇監督社員 三名  
◎入社御希望ノ方ハ左記出張所へ履歴書提出セラレタシ  
▼平出張所 福島縣平町銀冶町二九〔電話五〇三〕

内外全科 醫學博士 渡部 義夫  
小兒科 女 醫 渡部 きい子  
内科 渡部 外科  
平町田町大通り〔電話二七七番〕  
入院應需 渡部 外科

### 有給外務員招請

商品日掛販賣の權威  
平町南町一九 一徳合資會社平支店  
出張所 四倉町本町九九 湯本町三國三〇四

◎御家庭藥として是非御用意下さい  
熱い火や湯でヤケドなされた時直ぐツケますればヒブクレンにならずなほります  
キリ印太乙膏があれば安心です、お試用見本無料で差上げますからドウゾ御遠慮なくいらして下さい。殊にクサにはモットモ良く二、三回ツケればキレイに治ります。

キリ印 ヤケド キリキズ  
クサ アレ  
ヒブクレン あかざれ  
シモヤケ たぐれ  
太乙膏 平町古銀冶町一〇  
專賣店  
阿康薬舗  
電話四四番

# 他村に乗り込んで

## 諸般の調査に着手

### 平町の都市計畫益々進行

#### 測量と人家の實際

都市計畫法適用を實施した平町ではその後着々準備を進めてきたが隣村内郷、好間、平窪、神谷、飯野の近接他村部落の測量並に人家その他を調査の爲め過般來縣當局に對して各部落の立入許可方を申請中の處去る十八付を以て左記部落の立入許可された右立入期間

は十八日より起算して滿二ケ年である  
 △内郷村小島、御厩、御臺境、△好間村下好間、新田、今新田飛地、川中子愛谷、△平窪村下平窪中鹽、幕の内、鯨岡、大室、四波、△神谷村鎌田鹽、△飯野村北白土、谷川瀬

# 磐城丸初鰹

## 快報續々と至る

縣水産試験場指導船磐城丸は八丈島より南緯東三十五度の海上に出漁中二十日鰹の大群に遭遇し餌付きや、不良であつたが七百尾の初漁をなし翌二十一日は同海上附近で一千尾の漁をした

# 巨救工事完成し

## 救濟兒童が増加

### 平町に百廿八人

平町に於ける三小學校並に訓盲院昭和九年度學齡兒童三千五百七十三人中貧困兒童の救護を受ける者左の百二十八人に達してゐる

(第一校)教科書給與三一  
 學用品給與三一 被服費  
 一二 食料品五  
 (第二校)教科書一二 學用品三三 被服費一九

# 青訓主事指導員

## 本會艦上で講習

### 本郡内の出席者氏名

本縣では来る二十五日海軍簡閱點呼施行の爲め小名濱港に軍艦本會の碇泊されるのを機とし艦上に於いて青年訓練所主事指導員講習會を開催する事になつたが本郡内に於ける受講者は左の如く許可された

(泉)中野自廣治、日根定義、蓮見政憲、鈴木新衛  
 山田勉(大浦)根本喜代一  
 早川雅偉、高橋正一、根本三左衛門(永戸)小泉善治、藁谷庸次、高木徳良  
 村田美壽(錦)北原操、鶴沼忠晃(小川)大塚吉造  
 小野充雄、山野邊清、齋藤庄一(赤井第二)大越國治(小名濱)西山直三郎、西嶺喜三郎、後田義次  
 (山田)下山田通、蛭田榮佐久(夏井)松崎金松、阿部太、青木年正、渡邊徳四郎(内郷)橋貞勝(江

# 一勝一敗だけ

## 當日は見もの

湯本運動場完成祝賀の磐中對平商野球戦

俱樂部、入山對日立製作所の試合が舉行される筈  
 脇田澤下木坂木野商森 西沼會森佐赤鈴日  
 投捕一二三遊左中右  
 中川野澤子山坂兄弟部  
 磐 石小百増秋上阿草阿部  
 平町 人事  
 回死 亡  
 △戸町四七 當時北海道

# 學事統計

## 審査研究

昨日來平した本縣師範學校二部の教生三十六名は幸野主事及び星訓導に引率され本日午前中平第二小學校を見學し午後は泉小學校小名濱築港等を視察小名濱に一泊する

平町外十六ヶ町村の學事統計審査會は本二十三日午前九時から平町團体事務所樓上に開き各小學校の調統計に對する審査研究を行つたが出席者は平、四倉、大野、大浦、草野、神谷、夏井、高久、好間、平窪、下小川、川前、赤井、飯野、内郷、永戸、澤渡の各小學校及び町村役場の統計主任が五十餘名である

# 平商

## 修學旅行通信

中川郡豊頃村大字豊頃村宇石神和田たまのさん(六五)  
 午前六時卅二分細雨の中に二見驛を後にす、午前十時四十七分奈良着、なに分時間短いのので急がしい見學だつた。午後一時四十七分奈良を出發大阪に向ふ又これも大阪市内をバスで走り廻るような急スピードです梅田發五時二十分京都着六時十六分、バスにて指定旅館に向ふ夕飯後解散皆んな元氣に長閑な京都市内の光に消えて行く

# 吸入用酸素素純度99%

度量衡器  
 温度計  
 寒暖計  
 秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

# 關内藥局

電話四〇番

# 耳鼻咽喉科専門

# 鈴木醫院

醫學士 鈴木 正 男

自炊のお需めに應ず入院の便あり

平町田町(電話五八番) 藤田女學校前

# 美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番



# 新音頭

(禁野上談及上談)

田邊南龍(作)  
山本英春(書)

三九  
すり替へられた刀

「土手に喧嘩があります」  
「喧嘩位は大變な事はねえ、金を造つたり見舞をする盛り場で日に喧嘩、五つ六つねえ様な事ぢやア仕様がねえ、打たれてもお手は痛みませんかと云ふ様な事は江戸氣ぢやアね」

「へえ、ところが今日の喧嘩は大變でございます、幡隨院長兵衛元締と法華の長兵衛さんと喧嘩が始まつて土手は轉弱かへる様な騒ぎでございます」

暫らく考へて居た山脇莊右衛門

「此りやア少と面白い、仲人がなげりや困るだらうから行つて遣らう」

「イエ旦那様怪俄でもすると不可ません」

「何怪俄なんぞするもんか心配するな」

と黒田八丈の小袖博多の帯を締めて、黒縮緬五つ紋付いたる羽織、短い奴を一本打込んで庭下駄を穿いて大門の所へ來るところが人を以て山を築く様な騒ぎ

「それ紺屋町の先生だ」

「山脇先生が來た」

と云ふので金の勢ひで人は左右へバラ／＼と除けるダン／＼人を押し分け

て見ると二人は双方切先を合して斬り合つて居る、流石の先生着居た黒縮緬の羽織を取つて斬り結んで居る刀の上へ

「私は幡隨院長兵衛と云ふものでございます」  
「かねて御高名は承知いたして居ります」  
「固より私は好む喧嘩ではございませぬ何卒法華親分の方へ疵の付かぬ様な御扱ひを願ひとう存じます」  
「宜しい……法華長兵衛さんこの喧嘩は乃公に任せて呉んなせよ」  
平常山脇の道場へ行つちやア剣法を教はり、その外色々恩もあるから、イヤと



と掛け  
「何をやる」  
振り返るところへ飛んで這入り  
「待つた……山脇莊右衛門この喧嘩は預かる」  
跡へ下つて元締長兵衛脇差をピツタリ鞘に納めて

云ふ譯にも行かずシブ／＼刀を鞘へ納めて  
「宜しうございます」  
「承知して呉れたか明日の晝時まで私に預けて下さい」  
「……」  
「委細承知いたしました」  
「それに就いて私は丸の内

の御屋敷に據らない用事がありましてこれから直に丸の内へ用足しに參らなければなりません」  
「左様か、一人でお歸し申す譯に參りませぬから送りの者……」  
「イヤ誰方も來るには及びません」  
と無理に斷つて駕籠に乗つて丸の内の屋敷へ行つたと云ふのは、長兵衛さん喧嘩して居たと云ふ事が屋敷へ知れると、阿波でも長洲でも部屋敷の者が振つて來ちやア大變だ其處で駕籠へ乗つて屋敷の部屋々々を留めて

「喧嘩と云つたら俺が廻状を以て注進するから、前夜幡隨院へ集まつて來い、それまでは粗忽のことをしちやアならない」  
と留めて宅へ立歸つて來たのが四つ時分、之れを聞いて清兵衛さんも大きに安心したと喜んで居ります  
「夫れに就いて御飯を一杯食べよう、酒を一本付けてお呉れ」

## 新車購入御披露

御待ち兼ねの一九三四年マスターセエダン!!!本縣下の第一車が皆様  
の昭和へ入りましたニアクシ  
ン装置絶好の乗心地是非御試乗の程  
御願ひ致します。  
呼び良い電話三四〇番増設致しました。  
平驛前 昭和タクシー  
電話三四〇番  
三四三番

花柳外科 門專  
院醫科外村木  
際橋目丁六町平  
りあ便の院入炊自  
〇九三話電

市川魚屋  
魚焼  
魚屋  
店理代平命生本日大最優最  
榮 盛 賀 志  
(三一二電)目丁四平

科外  
門專  
線光X  
上田外科醫院  
平町南町  
電話一九二番

開業  
診療科目  
一、齒科一般  
二、小兒齒科  
三、口腔外科  
四、レントゲン科  
補綴科  
矯正科  
齒槽膿漏科  
中野齒科醫院  
院長 日本齒科 醫學士 中野 惠次  
日本齒科 醫學士 西川 誠  
平町田町(松月堂向ヒ)電話五〇九番

喜多流謠曲と仕舞の  
お稽古をお勧め致します  
喜多流 謠曲 仕舞  
白土會  
平町 九六  
電話 二二七番